

異なる空間で、地域の “がん拠点” 病院を目指す どこでも、誰にでも、 最善の医療を提供する



「私が当院の院長として目標にしているのは、『生命だけは平等だ』という徳洲会の理念を、この湘南の地で実行することです」(塩野正喜院長)。取材は、徳田虎雄理事長の写真が掲額されている湘南鎌倉総合病院院長室において行われた

塩野正喜 医療法人沖繩徳洲会 湘南鎌倉総合病院院長に訊く

「生命 (いのち) だけは平等だ」——。この言葉を理念に、患者目線での医療を実践している医療法人徳洲会。その日本最大の医療グループの25番目の総合病院として、1988年11月、神奈川県鎌倉市山崎に開院した湘南鎌倉病院は、日本初のバチスタ手術(左室縮小形成術)が行われるなど、地域医療の要として、さらには日本の医療を牽引する施設としての役割を担ってきました。その湘南鎌倉病院は、2010年2月に医療法人沖繩徳洲会湘南鎌倉総合病院に改名。同年9月には鎌倉市岡本に移転し、旧病院の2.5倍の敷地の中に地上15階・地下1階の病棟を建設、屋上にヘリポートを備えるなど、年々、その必要性が増加する急性期医療への対応を図ると同時に、トモセラピー(CTとリニアックを組み合わせた最新鋭の放射線治療装置)に代表される高度医療機器を導入するなど、がん治療にも注力しています。

そこで今号では、湘南鎌倉総合病院を訪ね、塩野正喜院長に病院の理念、新たに設立されるがん専門病院・オンコロジーセンターの建設構想などについてお聞きしました。

取材／編集部 構成・撮影／関朝之

●徳洲会創設時の理念そのままに、地域医療を実践

——まず、塩野先生が徳田虎雄理事長から継承している医療者としての理念をお聞かせください。

塩野 やはり、私が当院の院長として目標にしているのは、「生命だけは平等だ」という徳洲会の理念を、この湘南の地で実行することです。そのためにも、年中無休・24時間オープン、救急患者さんは決して断らない、患者さんからは一切贈り物をいただかない、といった徳洲会の理念を病院全体で徹底しています。

私は今から約25年前に国立病院から徳洲会に入り、千葉徳洲会病院に1年10カ月いました。そして、老健の施設などを経て2006年に湘南鎌倉総合病院の院長に就任しました。徳洲会に入るきっかけとなったのは、徳田理事長にお会いし、「生命だけは平等だ」という理念を実践している迫力、医療に対する希望や夢を聞かせていただいたからです。

徳之島の貧しい農家の8人姉弟の長男として生まれた理事長は9歳のとき、すぐに医者に診てもらえず弟さんを亡くしています。そ

急性期病院と

いつでも、



湘南鎌倉総合病院外観

れが、徳田虎雄という人物を医者にした原動力であり、今の徳洲会の理念に反映されているのです。

——「患者さんからは一切贈り物をいただかない」ということです。なかには付け届けを置いていかれる方もいらっしゃるのでは？

塩野 そのような場合は、総務課に頼んで患者さんにお返しするようにしています。それが難しいときは、同額と思われる贈り物で返しさせていただきます。

基本的には、患者さんから1個のみかんをいただいても厳しく罰せられるのです。

——意味合いは異なりますが、国からの補助金・助成金もあまりいただいていない、ということですが……。

塩野 現在、国から交付されているのは、臨床研修病院としての補助金のみです。その他、県の救急指定病院になっていますので、鎌倉市を通してその補助金が交付されるくらいです。それ以外の補助金・助成金は、一切いただいていません。そのような形での運営が徳洲会の理念の1つでもあるわけですから……。



年中無休・24時間オープン、「救急患者を決して断ることはない」という日本最大の医療グループ・徳洲会。深夜でもいつでも急患を受け入れる態勢が整っている(写真提供：湘南鎌倉総合病院)

徳洲会では、その他にも、健康保険3割負担にも困っている人には猶予する、生活資金の立て替え・貸与をする、という理念も掲げ、それを実行に移しています。それも、徳田理事長の「いつでも、どこでも、誰にでも安全な医療を届けたい」という夢の実現でもあるのです。

——「いつでも」「誰にでも」という姿勢は、まさに「救急患者さんは決して断らない」という理念を実行されているんですね。

塩野 当院でもっとも規模が大きな科は救急総合診療科です。現在、1日平均40台の救急車が患者さんを搬送してきます。それ以外



医療サービスの一環として、シャトルバス8台で大船駅や葉山などからピストン輸送で患者さんを送迎している

の救急の患者さんを含めると、年間4万人を超えます。その患者さんのすべては、当院の「湘南ER」と呼んでいる救急総合診療科で受け入れています。もちろん、その他にも、夜間や休日などの救急の患者さんにも対処しています。

救急の患者さんのなかには、他の病院で診察を断られるような生活に困窮している方、身寄りのない方、あるいは産気づいたのにも関わらずいます。当院では、基本的にそのような患者さんを断ることはありません。

——生活に困窮している方の治療費は、どのように回収するのですか？

塩野 その患者さんが治療費として支払っていただけるお金を所持していない場合は、後日、ケースワーカーがその患者さんが救急車に乗った場所の自治体と交渉します。

その結果、お金を出してくれるケースもあれば、出してくれないケースもあります。

——治療費をいただけない場合はそのままですか？

塩野 そうです。それでも、そのような方々の受け入れを断らないようにしています。かといって、医療サービスの質を落とすことは断じてありません。私たちは、理事長が徳洲会をつくろうとした気持ちをお大切にしながら、日々、患者さんに接しているのです。

●平均在院日数を短縮し「1日」60人の入院患者の受け入れが可能に

——現在、湘南鎌倉総合病院には、どのくらいの人数の先生がいらっしやるのですか？

塩野 医師だけで約180人、病院全体の職員は約1500人です。（鎌倉市）山崎にあった旧病院時代の職員は約1000人でしたから、この2年間に5割ほど増えたことになりました。もちろん、新築移転してから患者さんの数も増えましたが、その分、医師やコメディカル（医師以外の医療専門職）も増えているので、「7対1の看護体制」を実行できています。——患者さんの人数や平均在院日

数は、どのくらいなのでしょう？

塩野 （2012年）4月に新しく入院してきた患者さんは約1800人でしたから、単純に30（日）で割って、1日平均60人の患者さんが入院されていることになりました。その平均在院日数は9日を切っていて、昨年度は8・9日でした。現在のベッド数は574床で、その占有率は95%前後です。これだけの患者さんが来院してくださるのは、どのような状況の方でもお引き受けしていることもありませんが、より専門性の高い医療技術を提供できる体制を整えている結果だと思えます。専門性という意味では、循環器科の人材と設備は旧病院の時代から充実していました。

当院には、それぞれの科に実績と技術を持つそれなりの医師が必ずいます。彼らの医者としての夢を実現するために、設備購入などの経済的投資を惜しみなく行っています。その1つが、トモセラピーです。

——トモセラピーの導

入によって、より先進的ながん治療が可能になったわけですね。

塩野 はい。もちろん、当院のオンコロジーセンターでは、集学的治療から社会的・心理的サポートまでを行っています。しかし、基本的に当院は急性期病院で、工夫次第ではまだまだ平均在院日数を短縮できるはずで、いずれ7日台にしたいと考えています。これまで、平均在院日数を短縮できたからこそ、1日約60人の新入院の患者さんの受け入れが可能になったのです。

——平均在院日数を短縮するうえで留意されているのは、どのようなことですか？

塩野 今、苦労しているのは、当院を退院した患者さんの受け皿がなかなか見つからないことです。もちろん、受け皿がなければ退院できません。そのために、受け皿、つまり地域の療養型医療施設や回復期リハビリ病院などとの「病病連携」、開業医との「病診連携」ができる体制を整えるために動き出しています。

●がん治療の専門施設を旧病院跡地に建設予定

——がん治療に特化した施設の建



塩野 正喜（しおの まさき）

1940年神奈川県横浜市に生まれる。1965年東京医科大学歯学部卒業。9年間国立病院に勤めたのち、徳田虎雄理事長と面談する機会を得、「生命だけは平等だ」と訴える理事長の理念に感銘を受け千葉徳洲会病院に勤務。1987年同病院整形外科部長、1988年湘南鎌倉病院副院長・整形外科部長。葉山ダイケクリニック、ゆめが丘クリニック院長、介護老人保健施設がまくら施設長を経て、湘南鎌倉総合病院院長に就任、現在に至る



トモセラピー、ダヴィンチ、320列CT、3.0テスラMRIその他、医療設備が充実していることも湘南鎌倉総合病院の特徴。写真は手術用ロボット「ダヴィンチ」(da Vinci S) (上)と320列CT (下) (写真提供：湘南鎌倉総合病院)

設が予定されているようですが、急性期医療とがん治療のような慢性期医療を行う病院とは、場所を別にしたほうが良いとお考えですか？

塩野 はい。入院日数が比較的、長いがんの治療は、急性期治療とは違う場所で行ったほうが良いということになりました。そこで、まだ名称は決まっていますが、がん治療に特化した施設を旧病院の跡地に建設しようという方向に動いているのです。やるからには日本でもトップクラスの放射線治

療の設備を揃えたいということで、2台の陽子線治療装置を購入する予定です。2台あれば、1台をメンテナンスしているときでも、切れ目なく患者さんに対応できます。

たとえば、リニアック（X線や電子線などの放射線を当て、がんなどを治療する装置）やサイバーナイフ（がんなどの病巣に多方向から放射線を集中照射して治療を行う装置）などは、設置されている病院も他にありますが、陽子線治療の装置を備えている病院はき

わめて少ないですから……。——そのがん専門病院の完成は、いつ頃を目処にしているのでしょうか？

塩野 まずは、山崎の地域の方々に対象に「こういう病院をつくりたいのですが……」という説明会を開いています。そして、住民のご理解をいただき、大きな反対がなければ、病院の建設が始めるのです。そのうえで、早ければ2015年の完成を目指しています。鎌倉市は比較的、高齢者が多く、年齢を重ねるほどにそのリスクが高まるのがかんですから、地域にきちんとしたがん専門病院をつくるのが私たちの願いです。

——新しい病院をつくるうえで、どのようなことが問題点となっていますか？

塩野 いちばんの問題点は、ベッド数の確保です。がんは急性疾患ではないので、それなりのベッド数が必要です。したがって、150床以上のベッドがある施設にしようと考えています。鎌倉市では全体の病院のベッドの床数が決められているので、当院のベッド

数を削って新しい病院に持つていくか、他の病院からベッド数を貰うか、ということになります。前者だと、当院の機能が落ちてしまいますので、他の方法でベッド数を確保したいところです。やはり、がんの患者さんは多いですから、なるべく早いうちにがん治療の領域でも地域における拠点の役割を果たせる形を整えたいと思っています。

——最後に、がん専門病院をつくるにあたっての抱負をお聞かせください。

塩野 当たり前ですが、がん治療は門外漢の医師が片手間にできるものではありません。したがって、柱になる腫瘍内科医を養成しなくてははいけません。また、がん看護の専門看護師などのコミュニケーションを養成したいと考えています。そして、新しい病院ができたとき、がん診療連携拠点病院として手を挙げられるだけの実績をつくっていきたいと思います。

湘南鎌倉総合病院
神奈川県鎌倉市岡本1370番1
TEL 0467-46-1717
FAX 0467-45-0190
URL :
<http://shonankamakura.jp/>